

今年1月にスキーヤーから出版された、丸山庄司さんの著書「岳に抱かれ生涯極楽スキー」。一途に一事を本道で、一途に一事を

フリーの風 (現場)からの風

宮田 守男

105

読む機会があった。月刊スキージャーナルのコラム「遠き思いで。近き夢」、さまざまに展開されるスキーに関する歴史場面だ。

丸山庄司さんは、昭和8年に、山岳ガイドをしていた父の経営する民宿に生まれ、競技スキーワでは日本のトップクラスで活躍、金日本スキーリーグの初代デモンスト레이ターとして認定され、スキー指導者として指導に当たった。現役後は教育本部(基礎スキー)、強化本部(競技スキー)の両分野の要職と専務理事を歴任したスキーリーでは知らぬ人はいな

い功労者だ。長野冬季オリンピック招致やアジア各国とのスキー交流にも貢献、平成19年

の叙勲で旭日双光章(スポーツ振興)を受章された。著書は、6

国際的スキーエリアとして認知されてみませんか

だ。ぜひ多くの人に読んでほしい。

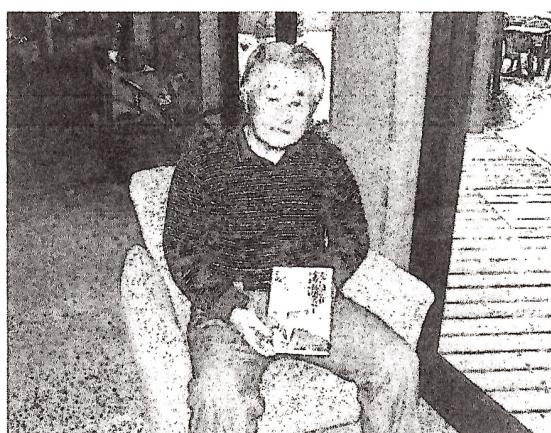
「白馬のスキー指導者・オーストリアに学ぶ」で、世界をリードするスキー技術を学ぶために、先遣隊として斜面の技術レベルや、斜面の雪の条件に合わせた立スキー学校に特別入

学させ、1か月間研修させたことだ。本隊45名の観察団が訪れた時には、「スキーは自然との対話」である事を忘れ、箱庭のような小さな斜面でフォームにこだわり、技術追及するのではなく、「スキーは

とかく観察は、聴き手側。観察効果を得られないことが多い中、先駆的な積み重ねが、八方を世界的なスキー

徒を導き、上達させる義務がある、と再認識した先遣隊に報告させた。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）



地元での国際スキー教育会議の開催がスキー発展に必要と丸山さんの情熱が語りかけてくる

難題があつたが、国際スキー連盟や全日本スキー連盟との調整で、も、「丸山庄司さんから内容は聞いているよ、早速本題に入ろう」との言葉は、本当に有難かった。歴史を語

る、多くのスキー関係資料を、ぜひ多くの人達にこれからも伝えてほしいと願っている。（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）